

総合計画審議会委員からの意見整理

(第1回～第1回会議後の書面意見)

総合計画審議会委員からの意見一覧

会議	No.	意見者	種別	該当ページ	区分	意見内容	市の考え方・対応方法(案)
1回目	1	木村委員	資料5	123	総合計画概要	スーパーシティ構想が、(国申請を)通っていると思うが、今後の進捗状況や計画はどう考えているのか。また申請が通ってから、計画を具現化していくのか。	スーパーシティ構想については、現在も申請中であり、国審査はまだ通っていない状況である。申請が通った場合はそれに沿った形で進めていく。その他新たな交付金等も同様である。その他の重点施策も含めて、線表の変化については、状況を把握をしていくが、計画書としては3年間使用していく。
1回目	2	有賀委員	資料5		その他	「ロードマップ1.0」の周知について、市の広報紙等でかなり紹介されていたが、概要版を回覧で回したとか、子ども版については、小学校の方で配布したとか、活用方法について、お尋ねします。	概要版については、各世帯に1冊という形での配布はしていないが、公共施設に配架することや各所管が関係機関に配るなど活用している。子ども版については、市内の小学校6年生に1人1冊、全員に配布をさせていただいた。これを元に総合学習や社会の授業をやっていただくことや、職員が学校に行って、話をさせていただいたりしている。
1回目	3	有賀委員	その他		その他	子ども用の小田原市のまちづくりがイラスト入りで可愛くて、すごい親しみやすさを感じました。学年に応じてになると思うが、10年後の自分の未来とか、小田原市について考えるきっかけになればなと思って、楽しく読ませていただきました。梅丸の紹介も私は知らなかったのが、楽しく見させていただきました。	参考とさせていただきます。
1回目	4	出石委員	その他		その他	学校での子ども版の資料を使った総合計画の学習は、大事だと思う。他都市でもやっているのだが、どちらかというと立ち消えていることが多いので、できることならば、カリキュラムに組み込むようなことを今後、考えていった方が良いのではないかと。	参考とさせていただきます。
1回目	5	ギャリッシュ委員	その他		その他	娘が小学生なので、小学生向けの総合計画を作ってくれて、ありがとうございました。	参考とさせていただきます。
1回目	6	ギャリッシュ委員	資料5	24	総合計画概要	「国内外から人や企業を呼び込めるまち」になれるように、あと、「世界が憧れるまち“小田原”」とあるので、小学生のこういう資料と同じように、何か海外向けの翻訳版を作成する計画や予定はあるのか。横浜市や仙台市もそういう海外向け、海外の企業向け活動をやっている。	現在、海外向けに、専用に翻訳したものの発行などはしていない。また、発行する計画もないが、ホームページには、翻訳機能は付いているので、海外の方や外国籍の方にもご理解いただけるというようなものはある。現在、総合計画を海外に周知することは計画していない。
1回目	7	出石委員	資料5		その他	「世界が憧れるまち“小田原”」ですから、海外へ発信した方が良いと思う。英語版がホームページにあるのか。国際化の時代なので、英語版のみでも作った方が良いと思う。	翻訳ソフトがついており、5か国語ぐらいはホームページの内容が閲覧できる。ただし、ホームページ上のテキストに限られるため、添付されるPDFは翻訳できない。Googleの翻訳機能などには対応できるようになっている。
1回目	8	出石委員	資料5		総合計画概要	実行計画3年間の途中でKPIを変えたりすることがあり得るのか。それとも、KPIはこのまま維持するのか。	KPIについては、現在の計画に上置いているが、評価等を踏まえて柔軟に考えていく。ただし、冊子を作り変えることは難しい。毎年度、この審議会での評価を踏まえて、最終的な評価を何らかの形で、ホームページ上でも公表していくことになる。
1回目	9	出石委員	資料5		その他	これだけ検討を重ねて作ってきたKPIや実行計画の内容なので、冊子を直す必要はない。それでも軌道修正を図った方が良いということがあれば、ホームページ上で直していくとか、この審議会でも新しいKPIや実行計画の内容でローリングしていくことだと思う。3年間コンプリートして、次の実行計画で変えるのではなくて、ある程度柔軟に対応するということがよろしいか。	お見込みのとおりである。

総合計画審議会委員からの意見一覧

会議	No.	意見者	種別	該当ページ	区分	意見内容	市の考え方・対応方法(案)
1回目	10	関委員	資料6		評価方法	SDGs、それと目標、KPI、時間軸が、しっかり書かれていたことがとても重要だと思う。すべての事業に対しての目標数値がちゃんと整備されたということは、とても重要だと思う。一方で、評価方法を手厚く、さらに、体系的に丁寧にやろうというご提案はとてもよいが、評価をするのに、時間と労力を掛けるより、事業を推進した方がよいという部分もあるので、できるだけ評価をするシートに関しては、簡素化をし、庁内の評価に労力を掛けすぎないように手法を考えていただきたい。ちゃんと事業を推進し、さらに評価して、その次につなげていこうとする姿勢は、非常に素晴らしいと思う。評価に力を入れ過ぎるより、できれば事業推進の方に力を入れるべきという考えもあると思う。	ご意見を踏まえ、できるだけ評価に係る作業を簡素化し、事業所管課の負担軽減を図ることで、事業推進に経営資源を配分したいと考えている。
1回目	11	平井委員	資料6		評価方法	大元の指標というのが、住み続けたいという意向を持たれる方を少しでも増やすという目標値だと理解しているのだが、各施策がそういった大元の目標に対して、どうやって紐付いていくかということ意識して、施策を考えて、評価もしていくということが、大事になる。それが、個別の評価に結局時間を取られ、疲労感が各自治体に広がっている原因の1つだと考えている。1つ1つが大元の指標にどうやって結びついていくかということを考えていただきたい。	住み続けたいという大目標に対して、それぞれの目標値がどうリンクしていくのかということ踏まえた評価をという点については、ご意見のとおりである。住み続けたいと思う人の割合は、地域経済や豊かな環境の目標と同じ扱いで、この計画の中では1番上位に位置づけている。最上位の目標に対して、各施策がどのように貢献していくのか、毎年、市民意識調査で測っていった時に、この数字がどのように変わっていくのか、これが市の施策で左右されるものなのかどうかは、現時点ではわからない。今後の市民意識調査や内部評価のところで、そういった認識を全庁的に持って、評価をしてまいりたい。
1回目	12	平井委員	資料6		評価方法	国際的に、あるいは国としても、住民の幸福感、Well-Beingというものを、1つ重要な政策指標にしていこうという動きがあり、小田原市でもこの総合計画を立てる時の市民意識調査では測定をしていたかと思うが、それに関して、どのようにしていくお考えなのか。少し早い時期だが、今の段階から、問題提起させていただいた。	市民意識調査等で測っていくことは可能だが、それぞれ市民の皆様がどういふところで幸福感を感じるのか、これも果たして、市の施策に因るものかどうかということも、今後の評価やいろいろなデータ分析をするところで、見ていきたい。
1回目	13	別所委員	資料6		評価方法	総合計画はかなり細かく記載されているのですが、各項目に記載されているものは、KPIと呼ぶよりも、KGIと呼んだ方がよいようなものではないか。これを評価していく時に、最終ゴールのところだけを評価するのは、なかなか難しいと思う。主な取組で、それぞれその目標値に対して、どれだけのものが寄与できるのかという因数分解をした上で、きちんとした評価をしていくというようなことを重ねていかないと、最終的なゴールのところだけ見て、どの施策が良かったのか、わからなくなってくる。各施策に予算が付いていくわけですから、その予算の効率的な執行という観点からも、少なくとも主な取組と書かれているようなところに、落とし込んだ中で、それぞれの主な取組のKPIを達成することで、最終的な目標値であるKGIが達成できるというような形で、建付けを考えていって、それが評価に反映されるというような形になっていくことが望ましいのではないかと。主な取組に欄を設けるなどの工夫をして、それぞれの結果が、最終的な目標にどう影響していくのかということを見ていただいた方が分かりやすくなり、評価もしやすくなる。	実際に来年度お示しする評価の形については、皆様にはできるだけ分かりやすいものにしたい。また、時間も限られている中でご意見をいただかなければいけないので、あんまり多くのものを盛り込みすぎても、なかなか実際にはちょっと見切れないだろうという懸念があったのと同時に、なるべく市として、これがこういうところまで進んでいます、こういうことをやりますということ、できるだけお示ししたいと考えており、その攻めぎ合いのところが確かにある。主な取組に、何も触れないわけではなく、実際に、施策の進捗状況については、一定程度お示しできると思うが、どこまで詳細に、細かくデータとしてお出しできるか。また、お出ししたところで、皆様はどう読んでいただけるのかということがある。主な取組や具体的な取組内容が全くわからないというものにはならない。
1回目	14	奥委員	資料6		評価方法	どこが実施するのかというところを改めて確認させていただきたい。内部評価①の「まちづくりの目標」、これは事務局の企画政策課がやるということによるのか。内部評価②の重点政策については、これは関係する所管課ということになり、③も施策を所管するところということになるのか。	お見込みのとおりである。

総合計画審議会委員からの意見一覧

221213 企画政策課

会議	No.	意見者	種別	該当ページ	区分	意見内容	市の考え方・対応方法(案)
1回目	15	奥委員	資料6		評価方法	内部評価資料を元に、その内容に対して意見をすることだが、他の自治体の外部評価などにも関わっており、特に施策レベルの評価になると、所管課とある程度やり取りしたり、確認をしたりした上でないと、正確な意見なり、評価ができないということが実際にはある。書面だけで、どこまで責任を持った意見が出せるか少し心配である。	各所管とのやり取りについては、想定していない。確かに各所管がいれば、非常に詳細なやり取りは可能だが、現時点では、各所管の考えは、あくまでも調書の中で示していただき、総合計画審議会に直接所管が出るということは、今は想定していない。必要だということであれば、当然できないはないが、相当な時間が掛かるので、そこと兼ね合わせて考えなければいけない。
1回目	16	奥委員	資料6		評価方法	審議会の意見を踏まえて、予算要求にも反映させていくことまで考えているようだが、初年度でそこまでできるのかということもあり、もし予算要求につなげていくことを想定するのであれば、内部評価の、少なくとも③の施策と主な取組、本来であれば、施策を構成する事務事業すべてに係る当初予算とその執行状況の金額を示していただいた上でないと、具体的に、どこに多くの予算を割っていくべきなのか、もしくはもう少し効率化ができるのではないかとといったような、そういったことに対して、審議会として、もしくは審議会委員としてはなかなか意見は言えない。予算にもつなげていこうということであれば、もう少し③の特に施策の評価表のところに、予算に関わる情報も入れておかないといけないと思う。すぐには予算要求に結びつけるというのは、難しいのではないと思うが、そこまで視野に入れるのであれば、ちょっと工夫の余地がこの評価表にはある。	施策の中での予算配分を変えていくことや、重点化する事業により投資するといったレベルのものについて、この評価を踏まえて内部でさらに検討してやっていくが、多くのものを予算に直接反映するのは難しい。来年度の総合計画審議会でも評価やご意見をいただいて、それをやっていこうとした時に、例えば一つの事業の中でちょっと工夫して改善していくということであれば、それは一事業の中でも予算の工夫ができますので、そういったものについては、すぐに翌年度の予算から反映できるだろうと考えている。おそらく意見や評価の内容によっては、即座に対応しなければならないものもあれば、じっくり考えて、他との事業の予算配分も含めて考えないといけないものもある。そこは無理に、全部を予算要求に反映させるというよりも、可能なものについては、翌年度の予算に反映していくものもあるだろうという想定である。
1回目	17	出石委員	資料6	8	評価方法	外部評価のあり方については、多分、意見が分かれる。本当はこれをちゃんと議論しなければいけないところである。個別に各セクションとのやり取りを総合計画審議会でするのは大変。そういう自治体も私が関わっているところである。今、一般的には総合計画の内部評価が大事と言われている。外部評価、チェックは入るのだが、それぞれを全部チェックしてやるというのはちょっと現実的じゃない。一方で、より精緻にやる方法もある。内部評価はある程度内部で作り上げてもらうものに対して、外部評価の部分は総合計画審議会がやる評価だから、どうあるべきかちゃんと決めなければいけない。どうあるのかというのは、委員間討議をして、決めなければいけない。8ページのやり方に対して、疑問がある。個人の意見としてばらばらに出てきたものを、事務局がまとめると見えるのだが、それもちょっと何かどうかなという気はしている。	本審議会は、分野も異なる有識者や専門家、そして公募市民が参加する多様な委員構成となっており、詳細な内容になればなるほど、意見が異なることも想定される。一方で、附属機関として意見具申(評価)を行うにあたり、審議会の総意として意見をとりまとめることが重要であることも認識している。
1回目	18	出石委員	資料6		評価方法	次回の議論の仕方については、こちらから出した意見を踏まえて、この出されているものを直したものを提案するという考えか。昨年度のように一旦メール等で意見をもらいましょうか。外部評価については、次回少し議論をさせてもらいたい。私(会長)と事務局で調整して、ある程度、再度原案的なものを事前に示すので、次回議論してもらい、外部評価の仕方を答申に向けていくことでよろしいでしょうか。	今回は答申内容の協議のため、本日ご意見いただいたものをまとめて、答申としての最終結論をご議論をいただく予定だった。この委員会の予定は、あと1回なのだが、次回その部分について、重点的にご議論いただくというのは十分可能である。
1回目	19	奥委員	資料6		評価方法	ヒアリングを所管課にすべてするというのは、現実的ではない、基本は書面で良いと思っている。ただ、単に意見をそれに対して出すというよりは、この部分は実際どうなっているのだろうか、これはどういう趣旨なのだろうかという確認ややり取りの場、機会というのが、多少は、必要に応じてあった方が良く、それは書面でのやり取りでも良い。質問票をこちらから出させていただいて、それに対して所管課から回答をもらった上で、意見を最終的に出すというような、そういった機会をちょっと挟む必要が、場合によっては出てくると思っている。	項番15と同じ

会議	No.	意見者	種別	該当ページ	区分	意見内容	市の考え方・対応方法(案)
1回目	20	信時委員	資料6		評価方法	内部評価を非常に丁寧にやられているが、外部評価に関しては、たった1ページで、我々総合計画審議会委員の意見だけで良いのかなと、少し疑問に思っている。例えば、WorkPlaceMarketなど、小田原市はこれからどういうまちづくりをするかにも因るのだが、これから小田原市で起業しようというか、これから中核を成す年代の層の人たちの意見や評価も入れていくべきではないか。それだけではなくて、もうちょっと広い市民の意見をDXというのを推進エンジンに掲げられているので、総合計画を推進するのにも、DXそのものを使うという方策も考えていく必要があるのではないかと。ちょっと段階が違うのかもわからないですけども、市民みんなで作って上げていくまちという意味では、システム的にデシディム(※Decidim オンライン参加型プラットフォーム)というシステムを取っているまちももう出てきている。もう少し広い形での意見の吸い上げということを、ここで決めていっても良い。とりあえず、問題提起だけさせていただきます。	若者や起業家の意見を取り入れることや、デジタル技術を使った市民意見の収集は非常に重要だと考えており、総合計画においても、推進エンジンとして「公民連携・若者女性活躍」や「デジタルまちづくり」を位置付けている。庁内において、どちらの領域も市長を本部長とする推進本部を立ち上げ、横串を通じた取組を進めているところである。今後、実際に事業化が進んでいく中で、そういった手法や技術などを取り入れていくことを検討していくことになる。
書面	21	有賀委員	資料7	34	市民意識調査	今回議事の中で、資料7「令和4年度小田原市市民意識調査報告書」について触れる機会がありませんでしたが、最近の調査結果としてよくまとめられている。「総合計画の推進や市政運営全般の参考とさせていただきます」と市長の記述にもありますように、最新の基準値として、評価・検証に反映させていくのか、今後の活用法についてお聞かせください。	令和4年度の市民意識調査は、基礎的な情報や都市イメージに関する経年変化を把握するとともに、令和5年度以降の評価・検証を実施するに当たり、基準値を把握する必要がある項目について、調査を実施した。当該項目については、毎年度、市民意識調査によって、実績値を把握していく。また、市の様々な政策立案に対して、EBPM(事実に基づく政策立案)の観点からも活用をしてみたい。 『「まちづくりの目標」の目標値』No.1 『重点施策の2030年の目標』No.5、6、26 『詳細施策の指標』No.16
書面	22	有賀委員	その他		その他	「広報小田原」に特別編としてGROWが配布されている。これは世界が憧れるまち小田原の7つの重点施策を特集するものということだが、事例が具体的で、市内の取り組みをわかりやすく紹介しており、小田原を身近に感じられる内容になっていると思われる。年4回に分けて特集するということですが、令和5年度以降も、継続される予定か。	広報小田原特別編「GROW」は、令和5年度も発行したいと考えているが、発行回数や掲載内容は未定である。
書面	23	荒井委員	資料6		外部評価	総合計画の評価にあたっては、PDCAサイクルが的確に行われる仕組みの構築が必要で、評価の結果を踏まえた改善策が次年度の予算編成に反映できる時期に、評価を行うことが適切であると考えます。このため、評価自体を緻密に行うことに時間を要して、次年度予算への反映が出来ないことは避けるべきであり、市が行う評価に加えて実施する総合計画審議会の外部評価については、施策の方向性が適切か、新たな課題に対応できるのかなど、大局的見地から評価を実施することが望ましいと考えます。	ご意見のとおり、総合計画審議会の評価については、大局的見地から、施策の方向性が適切か、新たな課題に対応できるのかなどに意見をいただきたいと考えている。

総合計画審議会委員からの意見一覧

会議	No.	意見者	種別	該当ページ	区分	意見内容	市の考え方・対応方法(案)
書面	24	平井委員	資料6		評価全般	1.より実効性のある行政評価にむけて 行政学者の嶋田暁文先生が「計画策定等の義務付けと地方分権」(『ガバナンス』246号、2021年)でご指摘のように、「疲れない」行政評価のためには、大きな目標値と各施策の目標値との整合を予め取っておいた方がよいと考えられる。課税所得や観光消費、GHG排出削減はまだこちらも検討できていないが、住み続けたいと思う人の割合についてはすでに分析を進め、市の御担当課には結果を共有させていただいている。それによれば、住み続けたいと思わない人びとの3割(しかも住み続けたくない割合が高い層でもある)は、医療体制を整っていないと評価する20代以下と40代、80代だということがわかっていて。たとえば、そうした方たちの医療体制への不満の内実を掘り下げ、ピンポイントに響く施策の推進が必要であると考え。同様の分析・政策形成・評価の体制が望まれる。具体的には、各階層における評価・検証について、階層ごとに関連づけられるものがあれば、たとえば、上記のような、重点施策のうちのこの政策(精査はしていませんが1-1や1-2だろうかと)は住み続けたいと思う人の割合という目標値に関連づいているものと意識していると明記しておいた方がよいと考え。	項番11の回答と同じ
書面	25	平井委員	資料6		評価方法	2.総計審からの意見具申に先立ち、各施策の担当課から総計審でヒアリングを行う必要はないと考える。あくまで総計審は政策評価を行う立場だからであり、却って担当課とのやり取りは評価の第三者性を妨げるおそれがあるからである。	項番15の回答と同じ
書面	26	平井委員	資料6		評価方法	3.総計審からの意見具申に先立ち、各施策の予算額等の情報を総計審に提供を求める必要はないと考える。上記のとおり、総計審は政策評価を行う立場だからであり、その評価を踏まえた改善などこそ担当課で行うべきことだからである。	予算額及び決算額などの詳細な執行状況に基づく事業レベルでの評価(事務事業評価)は、別途実施しており、最終的には、市議会による決算特別委員会での決算認定に資料として用いられている。総合計画審議会の評価(行政評価)については、大局的見地から、施策の方向性が適切か、新たな課題に対応できるのかなどに意見をいただきたいと考えている。
書面	27	平井委員	資料6		評価方法	4.総計審からの意見具申の表現は意見を一覧させる形が良い。なぜなら委員の立場や視点はそれぞれに相当、異なること自体が、今日、社会的に期待されている多様性を確保する観点から望ましく、あえて審議会としてそれぞれの意見に対して重みづけや集約などを行うべきではないと考えるからである。	項番17の回答と同じ
書面	28	佐藤委員	資料5	120	その他	詳細施策2「女性・若者活躍の推進」について、今回は場の提供にとどまっていますが、この交換の場から2025年以降に実際に公民連携のプロジェクトや新しい取り組みが始まる構想はございますか？それとも、市が意見として吸収する形なのでしょうか？どちらを想定されているかによって、「若者や女性の視点やアイデアが行かされる環境を整備」のニュアンスが変わるので、文章の追記、もしくは目標値設定の見直しが必要かと感じました。	今回の実行計画については、2024年度(令和6年度)までを対象としているため、次期実行計画期間中の取組内容や目標値設定などについては、現在の取組状況により変わっていくものだと認識している。ご意見は参考とさせていただきます。
書面	29	佐藤委員	資料5	138	その他	「資料編」について、資料ということでしたら、索引するために、該当する頁を表記すべきかと感じました。	より詳細な索引のため、頁に代えて、「関連施策」の番号を掲載しております。ご意見を踏まえ、次回計画書冊子作成の際には、より分かりやすい表記を検討していく。
書面	30	佐藤委員	資料5	20	その他	「若者・女性活躍について」の二段落目、「若者活躍では、【20】歳代の平均が最も低く」は【30】の誤りではないでしょうか。ご確認お願いいたします。	計画書には詳細は記載していないが、年代別の平均点は20歳代が「4.11点」、30歳代が「4.29点」となっている。一方で、下段に併記されているグラフでは年齢別の結果に加えて、就業有無により回答結果を絞り込んでいるため、回答者全体との平均点とずれが生じている。ご意見を踏まえ、次回計画書冊子作成の際に、より分かりやすい表記を検討していく。